

発行:(公財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166-0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

*** 日本フィルの「被災地に音楽を」の活動は、100回を超えました!****<クラリネットのトリオで南三陸に行きました>**

3月21日、22日、宮城県南三陸に行きました。今回はクラリネット首席奏者の伊藤寛隆を中心とする中里真也(賛助)、竹内未緒(賛助)のクラリネットの3人が参加しました。今回は、昨年1月から志津川地域の「たまり場」として立ち上げた「さんさカフェ」を運営し、厨房を担当してきた内田兄弟のお母さんの絹子さん(73歳)がコーディネーターしてくださいました。



21日は志津川中学校でクラリネット三重奏のコンサート。モーツァルト：ディベルティメント、「フィガロの結婚」によるディベルティメント、フンメル：三重奏曲ほか、日本の歌曲の数曲。クラリネット3本という同族楽器のアンサンブルの、よどみのない心地よい響きを堪能しました。志津川中学と志津川高校の吹奏楽部の生徒たちが勢ぞろいし、学校校庭にある仮設住宅からも参加されました。両校とも日本フィルメンバーにとっては数回訪問しており、お馴染



みの学校で、顧問の先生も美しいサウンドに感動していました。コンサート終了後はクラリネットの生徒を対象に約30分のクリニックを行いました。

翌22日。午前中、メンバーは被災の現場を見て回りました。案内のタクシーの運転手さんは「志津川病院に入院中の義母はベッドごと流され、まだ遺体があがっていない」とさりと説明、一同、言葉を失いました。瓦礫もなく、更地となった場所にあった人々の生活を想像しながら、その人々の住む登米市の南方仮設住宅へ。伊藤さんの穏やかでわかりやすい解説で、モーツァルトの曲や早春賦や浜辺の歌が奏でられ、たくさんの人たちがニコニコしながら演奏を楽しみました。大袈裟な同情や嘆きより、はるかに人の気持ちを和ませる、音楽と音楽家の偉大さを感じさせる一日でした。



この活動は三菱UFJニコス株式会社が、日本フィルの「被災地に音楽を」の活動をPartnerSpecialとして支援してくださいました。

<7名の講師で、南相馬の4つの中学校へ、吹奏楽指導と合同演奏に行きました>

昨年に続き、4月3日～6日まで福島県南相馬市の4つの中学校(原町第二中学校、鹿島中学校、石神中学校、原町第一中学校)に吹奏楽部の演奏指導と合同演奏に行ってきました。南相馬市は日本フィルが本拠を置く杉並区と「災害時相互援助協定」を結んでおり、教育委員会と学校と連携して行いました。今回も、三菱東京UFJ銀行の協賛をいただき、ボランティアのみなさんが校庭に花壇を再生させる作業を行いました。今年は、フルート/藤田真頼(賛助)、クラリネット/平塚美保、トランペット/星野究、ホルン/伊藤恒男、トロンボーン/岸良開城、ユーホニウム/黒沢ひろみ(賛助)、打楽器/遠藤功の7名の講師が赴きました。

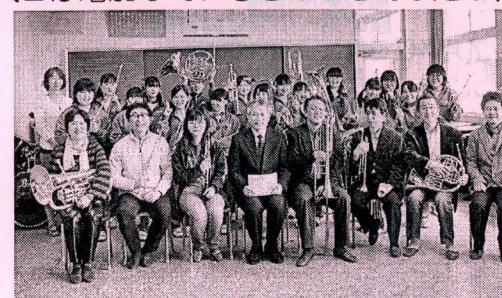
被災後2年を経過した南相馬は、除染と原発にかかわる作業員が増え、ホテルや道路も混んでいました。一見「復興」に向けて活気があるような印象を受けますが、大きな袋に詰められた除染した土があちこちの集落の一部分に集められ、放射能汚染の本格的な「消去」にはどれほどの歳月がかかるのか、想像を絶する困難さを感じます。帰還する人も増え、人口は増加しているとのことでしたが、



原町第二中(4月3日)

子どもの帰還は少ないとのことでした。吹奏楽の部員も、原二中18名、鹿島中13名、石神中13名、原一中34名で、震災前の半分から3分の1のままでした。

午前と午後の3時間は楽器指導。7名の講師が1対1で対応する場面も多く、ぜいたくで楽しい時が流れました。生徒たちの演奏は、的確なアドバイスでどんどん変わっていきます。



鹿島中(4月4日)